

【トラック10】

まる「ふふっ、ちゃんと待っててくれたんですね、お兄さん...」
まる「表のシャッターは降ろしてきたので、今日は思う存分...声を出しても大丈夫ですよ？」
まる「先ほどのことは忘れて...今は、マルとの時間を楽しんで欲しいです、ね？」
まる「そのままソファに寝転がってください...」

まる「マルは寝ているお兄さんにくつつきながら...」

まる「まずは...大好きな、ち・く・び...触ってあげますね♡」
まる「お兄さん、お耳好きですもんね♡」
まる「くすっ、今日もいっぱいエッチな言葉、吐息混じりに囁いてあげます♡」

まる「...ほら、変態なお兄さんの体は正直です、乳首...もう勃っちゃってる」
まる「お兄さんの、期待しちゃうてる乳首の周りを...くるくる、くるくる」
まる「こうするとマゾ乳首が主張して、もっとぷっくり膨れてきちゃうんですよ♡」

まる「マルが今までい〜っぱい虐めてきたから、指でさすさすしたり...」
まる「マルの匂いを嗅ぐと勝手に反応しちゃう、エッチな体になっちゃうんです♡」

まる「ほら、この尖った先を爪で弾かれたり、引っ搔かれたりするの想像してください♡」
まる「あの頭があま〜く痺れる刺激、おちんちんの裏側...」
まる「前立腺がきゅんきゅんする気持ち...ね？好きですよ〜ね？」

まる「くすっ、お兄さんはもう、マルなしじゃいられない...」
まる「立派な変態マゾ乳首に開発されちゃったんですよ〜♡」
まる「ほら、お兄さんの好きな言葉...耳元でいっぱい、言ってあげます♡」

まる「変態...♡変態...マゾ...乳首大好きな、変態どマゾ...♡」
まる「乳首をカリカリされるとお...すぐに涎を垂らしてアへ顔になっちゃう、変態♡」

まる「でも、そんなお兄さん...マルは好きですよ？」

まる「好きい...んっ...好きですう...」
まる「すぐ勃起する乳首も...おちんぽもお...お兄さんも...んっ...だあいすき...♡」

まる「くすっ、乳首...もう早く触って〜って顔してますね...」
まる「ほら、見てください...このうねうね動くマルの指...」
まる「これで、お兄さんの乳首をちゃんと、犯しつくしてあげます♡」

まる「ぷっくり主張しちゃうてる、このボッキ乳首の先端を」
まる「...ちょんちょん...くすっ、これだけじゃもどかしいですよ〜ね？」

まる「指の腹で優しく撫でるように、さわさわ...さわさわ...」
まる「今度は押しつぶすように...ぐりぐり...こねこね...」
まる「変態乳首をお...くりくりくりくり...こねこねこねこね...」
まる「ぷっくり膨れて感度抜群の先端を掠めるように...ぴんっぴんっ♡」

まる「くすっ、もうマルの足に硬いのが当たっちゃってます♡」
まる「ねえお兄さん、これ、なんですかあ？」

まる「乳首をいじられてギンギンに勃起させた...お・ち・ん・ぽ、ですよ〜ね？」

まる「マルに...ズボンを脱いでバキバキに興奮したおちんぽお...」
まる「お兄さんのおちんぽ見せてくださあい...」
まる「お兄さんの孕ませおちんぽお...早くみたいですう...♡」

まる「たくましくて...おっきくて...かつこいいです♡それにい...すんすん...くすっ」
まる「蒸れたオスちんぽのえっぐい臭い、女の子に嗅がせちゃダメな...媚薬みたいな匂い♡」
まる「こんなの嗅いじったら、体が勝手に発情してえ...」
まる「おまんこ穴がエッチの準備始めちゃいますよお♡」
まる「すんすん...はあ、やばあ♡...んっ...はあ、ふう...」
まる「今日は、いつも以上におまんこにきちゃう♡」

まる「くすっ、お礼にお兄さんの大好きなカリカリ、してあげますね♡」
まる「指を立てて...乳首の先端にあててえ...ほら、いきますよ？」
まる「乳首カリカリされちゃいますよ～？♡」

まる「カリカリ...カリカリ...カリッ...カリッ...くすっ...変態♡」
まる「...カリカリカリカリカリい...♡」

まる「んっ、ちんぽビクビクしてマルの足に当たります♡」
まる「もしかして、おちんぽフリフリして...マルのこと誘ってるんですかぁ？」

まる「カリカリ...カーリ...カーリ...カリッ、カリカリカリカリ...カリカリカリカリ...♡」

まる「声必死に抑えて、かわいいです♡」

まる「いいんですよ～、お店はもう閉じてるんですから...」
まる「「あっあっ、あんっ♡」って恥ずかしい声出していんです♡」
まる「マルしかいないですし、我慢せずに女の子みたいに喘いじゃいましょ？」
まる「乳首の快感に逆らわずに喘いだ方が、も～っと気持ちよくなれますよお？」

まる「それに...マルなんだかいつもより興奮しちゃって...」
まる「お兄さんの喘ぎ声聞いたら、お股ムズムズして...マルも高揚しちゃうんです♡」

まる「だから、ね？遠慮しないで...」

まる「んっあん♡はあ...乳首い...乳首好き...気持ちいいよお...」
まる「もっと、もっとマゾ乳首いじめてえ...やっあん♡...乳首しゅきい...っ♡」

まる「メスみたいに恥ずかしい喘ぎ声、出してくださあい♡」
まる「マルにお兄さんの変態らしい恥ずかしい声...」
まる「乳首マゾの吐息混じりの声を聞かせてくださあい♡」
まる「乳首カリカリ...おちんぽフリフリ...涎を垂らしてアヘアヘ♡」

まる「んちゅ...ちゅば...好き...好き、だよ？...ちゅる...じゅるる...」
まる「んむう...お兄さんの、感じてる顔も、勃起ちんぽも、マゾ乳首も...好き...」
まる「...ちゅば...じゅる...れろお...好き...はあ...」
まる「くすっ、耳元で好きって囁かれると興奮します？...好き...んちゅ...ちゅきちゅき♡」
まる「ん...好き...んちゅ...ちゅきい、ちゅば...お兄さあん...だあいすき...ちゅふ」
まる「ねえ...ちゅる...好き、好き好き好き...んっ、ちゅう...ちゅ～き♡ちゅ...」

まる「ぷはっ...くすっ、お兄さんの耳の穴、トロトロになっちゃいましたね♡」
まる「んちゅ...すーき♡」

まる「好き好きって言ったら...その、セックス、したくなっちゃいました♡」
まる「くすっ、反応しすぎです♡」
まる「でも、お兄さんとはおまんことのキス、してないですから...♡」

まる「マルのちっちゃなおまんこ、キツキツで気持ちいいと思いますよ？」
まる「お兄さんのちんぽの匂いで、すでにぐしょぐしょ...♡」

まる「触って確かめてもいいですよ...くちゅって...」

まる「んっ、あんっ...どう、ですかぁ？ マルのおまんこ、ぬるぬるでしょう？」

まる「このオチンポ穴に出し入れしながらぁ...」

まる「乳首、カリカリいってしたら...きっと蕩けるくらいの快感を味わえますよぉ？」

まる「くすっ、お兄さんも入れたいんですね...」

まる「マルのここ、赤ちゃん作る子作り穴に...ぶっといチンポ、ばこばこしたいんですね♡」

まる「それじゃ、マルが上に乗ってあげます...せっかくなので、ゆっくりしましょう？」

まる「スローセックス...そっちの方がねっとり乳首をいじめられますし...」

まる「お兄さんのオチンポ、じっくり味わえますから♡」

まる「マルが動くので...お兄さんは寝たまま楽にしていってくださいね...」

まる「お兄さんの上に、またがって...」

まる「うわぁ、改めて見ると、すごい...おっき...」

まる「こんなので突かれたらおまんこ壊れちゃいます♡」

まる「ゆっくり...入れていきます、ね？」

まる「...んっ...すご、ミチミチって...んっ、圧迫感やばぁ...ちよつとずつ...」

まる「...ひゃんっ！も〜急にちんぽビクってさせないでくださいよぉ♡」

まる「んっ、ふう...これで、半分...どうですかぁ？ マルのなか♡」

まる「あつい？くすっ、お兄さんのちんぽも凄い熱いですよぉ...」

まる「それに、バキバキに固くて...いい感じ...んっふう...あと、ちよつと...」

まる「んう...はぁ...これで全部、ですね♡ずっぱり入っちゃった...」

まる「マルのおまんこはどうですか？キツキツでとろとろでしょぉ？」

まる「まずは慣らすために動かさずに...んっ、ふう...乳首、カリカリ、してあげます♡」

まる「優しく...カーリ...カーリ...あはっ、ちんぽ中で動いてる♡」

まる「子宮が目の前だからってえ、勝手にびゅるびゅるしないでくださいねえ？」

まる「カーリ...カーリ...お兄さんの腫れ上がった変態乳首を...カーリ、カーリ...カリカリ...」

まる「そろそろ、いいかな...ゆっくり動かしますよぉ？」

まる「んっ...んう...やっぱり、おっきい...お兄さんの...んっ、ふう...」

まる「ゆっくりの方が...しっかりおまんこの感触が分かってエロいですよね？」

まる「くすっ、いい顔です、可愛い♡」

まる「このままロリのエッチなおまんこ、味わってくださいね〜♡」

まる「...んっ、ふう...マルも、楽しめますからぁ...あっ♡」

まる「おまんこでチンコキしながら...んっ、乳首もい〜っぱい...」

まる「ふう...コスコスしてあげます♡」

まる「ほらぁ...コリコリ...カリカリ...んう、コリコリカリカリい...」

まる「ひゃんっ、こら、早めちゃダメですよ、ゆっくりです♡」

まる「えっ、マルの...乳首も触りたい？...くすっ、いいですよぉ、今日は...特別です♡」

まる「このまま...んっ、じっとしてて、くださいね...」

まる「お兄さんの、んっ、ふう...おちんぽ入れながら、ゆっくり脱いであげます...♡」

まる「服を脱いで...じゃーん、マルのブラ、どうですか？」

まる「ちょっとアクセントが入った純白ブラですよ〜」

まる「おっぱい小さくても興奮しますかぁ？」

まる「お兄さんはロリコンですもんね、えへへ♡」

まる「このブラもゆっくり外して...ほら、見えてきました、マルのピンク色のち・く・び♡」

まる「触られるって分かって、ぷっくり膨れちゃって、うずうずってしちゃいます...」

まる「お兄さんのことばかり言えませんか♡」

まる「...んっ、ゆっくり、動くから...ふう、やさしく触って、ください...ね♡」

まる「マルもお兄さんの乳首...今度はゆっくり、んっ...触ってあげる」

まる「...そうそう、まずは優しくおっぱいを揉んで...ふう...」

まる「んっ、ふう、優しく揉まれてるだけで...んっ、気持ち昂っちゃいます♡」

まる「...ふう...おまんこも、ゆっくりなのが...ゾクゾクう～ってする...」

まる「んっ...今度は...勃起しちゃったマルの乳首...」

まる「指のお腹で...ふう...んっ、優しく、こねこね～って...ひやつ、んう、これ好き...♡」

まる「おちんぼが、出たり入ったりする刺激と...」

まる「乳首コリコリが...同時に来て...んっはあ...気持ち、いいよお...♡」

まる「お兄さんの乳首も、こねこね～って、んっ...してあげますう」

まる「...こねこね、こねこね...コリコリ、コリコリ...♡」

まる「んっ、ふう...もう我慢、できなくなってきましたあ？」

まる「んっ、ふう...むふふっ、マルのロリマンの、虜になっちゃいましたね～♡」

まる「まあしょうがないですよねえ、お兄さんのおちんぼ...堪え性ないですしい♡」

まる「でもお...んっ、ふう...このままゆっくりしかしてあげませ～ん♡」

まる「お兄さんはあ...そのまま、マルの思うままに焦らされていれば、んっ、いいんです♡」

まる「...ふう...この、まま...ひやうんっ、急に乳首強くしないでくださいよお」

まる「あっやあ...乳首そんないじるようにされたら...」

まる「んっ...おっ...ふう...声出ちゃいますからあ...んっ、くう...」

まる「や、え？なに...？マルが動くからお兄さんはじつと...」

まる「んむうっ...おちんぼも急にズンって...んふう...あんっ...激しくて...」

まる「あっ、あっ、ふう...だめえ...ゆっくりですよお...」

まる「チンポ早くなるだけで...こんな...おっ、おふう...んっ...はあん...」

まる「あっ、乳首もおまんこもぐいぐいって...んっ、ふう...」

まる「お兄さんのくせに...なまいき...んっふう...マルがいじめる方っんっお、おおお～～～」

まる「ズンズンしゅごいのきたあ...あっ、ふう」

まる「...おまんこ激しく突かれて...んっ、ふうっ...子宮が喜んじやってるう...♡」

まる「あゝあ、ゝおゝおっ、ゝおほっ、おまんこ負けちゃう♡」

まる「乳首ぎゅってされて、ちんぽに屈服しちゃいますう♡」

まる「ん、ん、おっ、おほっ、恥ずかしい声出ちゃう...

まる「んん～、やだあ、聞かないでえ...んっ、おほお...気持ちいい...」

まる「ギチギチのちんぽでえ...子宮コツコツされてえ...」

まる「んっふう...乳首も痺れて...中に欲しくなっちゃうからあ...んっ、はあ...ばかあ...」

まる「ばかばか、お兄さんのバカあ...んっ...この変態...おっ、おほお...」

まる「乳首つねるのと押し上げピストンきく...ふう...んっ、ふう...」

まる「あっあっ、なんかのぼってきちゃう、かもお...」

まる「んっ、おまんこ期待しちゃって...しゅごいい...ふうっ、んっ...ふう...」

まる「ふえ...なんで、急に止めるんですか...？」

まる「ふう...んん...はあ.....もう少しで、その...な、なんでもないですっ」

まる「イかせてほしければおねだり...って、それをマルが言うんですか...？」
まる「イキたい...けど...むう...」

まる「.....イかせてください.....」

まる「そんなんじゃダメって...お兄さんのくせに...」
まる「顔、こっち近づけてください...ね？」

まる「ん...んちゅ...ちゅる...じゅば...お願い...しますう♡」
まる「...マルのおまんこ...もう限界なんですう...んちゅ...ちゅばあ...れろ...」
まる「乳首とオチンポ様でえ...んちゅる...んちゅ」
まる「...じんじんして...犯してほしくて、ヒクヒクしてるんですう...じゅる...」

まる「好き...おちんぼしゅき...んっちゅ...じゅる...」
まる「しゅきだからあ...んちゅ...れろ...早く、マルのロリマンついてください...んっ」
まる「お兄さんの...んふう...専用おちんぼケースにい...んじゅる...してよお♡」
まる「...ちゅる...お願いしますう...んちゅ...ちんぽくさあい♡...れろ」

まる「じゅる...ふむっ！んっ！ふはあ...そ、そんな急にい...」
まる「おっ、おっおほっ、はげし...おほお...んっんっ♡」
まる「生パコきたあ...んっ、ふう...孕ませるつもりで...おまんこつかれてるよお♡」
まる「んっ、おっ、あんっ♡乳首もお、好き♡」
まる「もっとお...好きなだけ犯してください...んっあっあっ♡」
まる「き、効くうう...高速ピストンでおまんこ壊れちゃう...♡」

まる「はい、マルは乳首とオチンポに逆らえない...雑魚メスですう♡」
まる「マルの雑魚まんこを...おっ、おほっ♡チンポで好きなだけほじってえ...♡」
まる「んっんっ、お兄さん、も...マルいきそおですう♡」
まる「...んっ、おっ...おちんぽお、嬉しい...♡」
まる「マルも乳首...もっといじるからあ...いっぱい感じてくさあい♡」

まる「マルの中...小さなお腹ぽっこりするくらい...お兄さんのこってりザーメン」

まる「...んっ、ふう、流し込んでほしいですう...んっ♡」
まる「子供できちゃうくらい...濃厚でどろどろな精子...」
まる「んっ、ふうっ...いっぱい、いっぱいちょうだい♡...」

まる「んゝおっ、ゝおっ、ゝおゝおっ、ゝおおおっ、んんん...」
まる「やば、もうくる...マルきちゃう...チンポで決めちゃう...」

まる「いくいく...んっ、おっ、ゝおゝおおっ、んんっ...いく...いくううううう♡」

まる「おっおっ...おほお...でてりゅ...オチンポ様の精子...♡んんっ、はあ...ふう...」
まる「はあ...なか、マルの中...どろどろの濃いせーしで...いっぱい...♡」
まる「熱いのどくどくって...ふう...孕ませ中出し、嬉しいですう...♡はあ...んんっ、んっ...」
まる「まだ...体ビクビクしちゃう...んっ、ふう...出しすぎ...」
まる「これ、ほんとに妊娠、確定かもお...んっ、ふう...♡」

まる「ふう...マルの中...気持ちよかったですか？」
まる「...んっ、聞くまでもないですね...ふふっ、嬉しいです♡」

まる「それじゃ...抜きますよ？」
まる「...んっ...ふう...うわあ...どろって溢れてる...お兄さんの精子、匂いもすごお...♡」
まる「こんなにいっぱい...垂れちゃってる♡」

まる「あ、ティッシュどこだっけ...ええと...え？ お掃除、ですか？」

まる「くすっ、本当に変態さん、ですね♡」
まる「お兄さんのおちんぽで気持ちよくイカされちゃったし、いいですよ♡」

まる「ん...うわぁ...おちんぽ、愛液と精子でどろどろ...んっ」
まる「すんすん、すん...あ、はぁ♡この匂い...ふう...クラクラします...はぁ...♡」

まる「ん...ちゅ...ちゅる...れろ.....んふっ、きもひいい、ですかぁ?...んじゅる...ちゅば...」
まる「じゅるる...じゅるるる...んっ、ふう...」
まる「中也吸い出して...ちゅう、ちゅば...じゅるるる、じゅるるるる♡」
まる「んっ、ふはぁっ、綺麗になりましたぁ...♡残った精子は...」
まる「お兄さんの好きな耳元ごっくん、してあげます...♡」

まる「んちゅ...くちゅ...じゅる...んっ、こうひて、お口全体に絡めて...」
まる「んっふう...舌に粘っこくまとわりつく精子い...♡たまらないですう...♡」
まる「お口の中で...んっじゅる...くちゅくちゅするだけで...」
まる「頭トロンとして、発情スイッチ入っちゃいそお♡...んっ、ちゅる...」
まる「それじゃそろそろ...んっ、ふう...いくよお...んっ...ごくんっ...ふう...」
まる「...ほら、全部飲みましたよお♡」

まる「それにしても最後までしちゃうなんて...まあ、最初に入れたのはマルですけど...」
まる「お兄さんはぁ、責任...とってくれるんですか?くすっ、冗談です♡」
まる「最後、お兄さんで良かったです...もう少しこのまま、いいですか?」
まる「くすっ、お兄さんの体...おおきいです...包まれてるようで、なんだか安心します...」
まる「少し、眠ってもいいですか...?お兄さんも、いいですよ」
まる「おやすみなさい、お兄さん」